

北海道・三陸沖後発地震注意情報に備えて

発生確率は、0.1% ⇒ 1% になった。本当に巨大地震が発生するかは分からない。でも、発生したら直ぐに避難できるように備える。

1. デマや誤情報に注意すること。
2. 買いだめや買い占めはしないようにして下さい。普段からの備えが大事。
3. 普段通りの生活に、命を守り避難の意識を追加してください。
4. 直ぐに避難するために
 - (1)非常持出品、防災袋を準備
日常で必要なものが揃っているか確認、飲料水や食料の確認など
 - (2)緊急情報などの入手
スマホやラジオなどの準備と予備のバッテリー・乾電池の確保
 - (3)避難所と避難路の確認
ハザードマップなどを確認し、避難所や避難場所の確認や避難路の確認
 - (4)安否確認方法
家族との待ち合わせ場所や連絡方法を確認する
5. その他
事前に家屋の耐震補強、家具や冷蔵庫等の転倒防止、避難時にブレーカーを落として避難、消火器や住宅火災警報器の設置など

1. デマや誤情報に注意すること

(1) 情報を取る

- ① いつも見ている使っている番組等を利用
テレビ・ラジオ等のニュース番組・アプリを利用する。
- ② 信頼できる方や自治体の情報を使用する。

(2) 情報を発信する

- ① 確かな情報源で、その専門家も賛同している。
- ② 他の人やメディアはどうか。その画像や動画は本物か。
- ③ 流れやすいデマ等
【支援情報(給水、炊き出し、物資の提供や復旧業者など)】

2. 買いだめや買い占めはしないようにして下さい。 普段からの備えが大事。

- (1) 買いだめや買い占めは、他の方のことも考えて、お止めください。自分だけが良ければは、ダメです。避難するときに持っていけるのでしょうか。
- (2) 非常持出品や防災袋の中には、命からがら避難する時に必要な分だけで良いです。
- (3) ローリングストックで普段から準備し、賞味期限や消費期限を定期的にチェックする。
- (4) このチェックを半年毎に行い、夏季と冬季で非常持出品や防災袋の中を見直し・点検する。

①夏季：肌着や下着の替え冷感スプレー、ウエットティッシュなど

②冬季：上着(ジャンパー、カッパ、ウインドブレーカーなど)、カイロなど

3. 普段通りの生活に、命を守り避難の意識を追加してください。

(1) 懐中電灯やヘッドライト、ランタンなど
【ろうそくは火災の恐れがある。】

(2) 靴、スリッパ、帽子、ホイッスル、常備薬、
予備のメガネ、入れ歯、補聴器など

(3) 非常持出品や防災袋など

(4) 直ぐに逃げられる服装で寝たり、子どもや
高齢者と同じ部屋で寝るなどの工夫も必要。

上記に記載したものを準備して、夜間は寝室や直ぐに手が届くところ、日中はいつも居るところ(居間)などに置く。

職場や車に置くようにするなど、この期間は避難の体制を整えておくこと。

4. 直ぐに避難するために

(1)非常持出品、防災袋を準備

日常で必要なものが揃っているか確認、
飲料水や食料の確認など

- ①キーワードは、貴重品、常備薬、食料・
飲料水、簡単な着替え、日用品など
- ②避難の移動に苦勞する量は持ち出せない。
- ③命からがら逃げだすときに、重いものや
大量の食料などは要らない。
- ④無いと困るものを優先して持ち出すこと。
- ⑤季節によって中のものを見直し、入替え
を行い、食料や飲料水の賞味期限や
消費期限も確認する。
- ⑥普段から軽量化を図る。

4. 直ぐに避難するために

(2)緊急情報などの入手

スマホやラジオなどの準備と予備のバッテリー・乾電池の確保

- ① 普段使用している情報の入手方法を災害時にも使用することで、デマや誤情報入手しないようにする。
- ② スマホのアプリの更新と普段からさまざまなサイトやラジオを使用して、使い慣れておくこと。
- ③ 充電器や予備のバッテリー、乾電池を普段から余裕をもって購入しておくこと。

4. 直ぐに避難するために

(3)避難所と避難路の確認

ハザードマップなどを確認し、避難所や避難場所の確認や避難路の確認

- ①お住いの地区のハザードマップで危険個所や避難所や避難場所を確認し、いち早く避難すること。ルートや迂回路も合わせて確認しておく。【災害はハザードマップ通りには起きないことを覚えておくこと。】
- ②自宅が海や河口付近にある方は、出来るだけ早く、高い所に避難できるように災害が発生する前に考えておく。
【津波は河口から数km内陸に遡上することもある】

4. 直ぐに避難するために

(4) 安否確認方法

家族との待ち合わせ場所や連絡方法を
確認する

- ① 災害が起きる前に、家族で話し合いを行い、待ち合わせ場所や連絡方法を決める。
- ② 災害伝言ダイヤル171を利用する。
- ③ 津波などで一度避難したのちは、大津波警報、津波警報、津波注意報が発令されている間は、自宅や職場などに戻らないようにする。

5. その他

(1)事前に家屋の耐震補強、家具や冷蔵庫等の転倒防止、避難時にブレーカーを落として避難、消火器や住宅火災警報器の設置など

- ①室内に置いて、普段から居るところや寝室、避難口までの避難路は、家具の固定や転倒防止などを行う。
- ②通電火災の恐れがあるものはコンセントを抜いたり、避難時にブレーカーを落とす必要がある。
- ③火災発生や延焼を抑えるための努力をするため、消火器の準備や火災警報器を設置する。

5. その他

(2)車避難について

- ①車避難は出来れば避けたいところです。
身体の不自由な方や避難に時間の掛かる
高齢者などの避難行動要支援者などに
限定すべきです。
- ②たくさん荷物を運べたり、遠くへ逃げる
ことはできそうですが、交通渋滞を誘発し、
かえって避難に時間がかかることにつなが
ります。
- ③普段からガソリン等の燃料を半分以下にし
ないよう努力してください。車のライト
やラジオは災害時にも役立ちます。
(シガーソケットも利用できる)

5. その他

(3)ハザードマップや便利アプリについて

- ①国土交通省の『重ねるハザードマップ』や『わがまちハザードマップ』は、旅行や出張先などの土地勘のない所でも今居る地域の危険個所が分かるので、是非使用してください。
- ②川の河口付近の状況を確認したいときは、国土交通省の『川の防災情報』を使用することで、水位計やライブカメラでリアルタイムで確認できます。決して見に行かないでください。
- ③その他にも、気象庁の『キキクル』、『ナウキャスト』なども利用してください。

日本海溝・千島海溝沿いの 巨大地震

— 事前の備え —

知ることであなたと大切な人の命を守る

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、プレート境界での地震の他、多種多様な地震が発生しており、幾度となく大きな被害を及ぼしてきました。

日頃から突発的に発生し得る地震への備えを徹底し、

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されたら続いて発生し得る地震にも備えましょう。



東北地方太平洋沖地震の震源域

日本海溝・千島海溝沿いの
巨大地震の想定震源域

最大震度 7

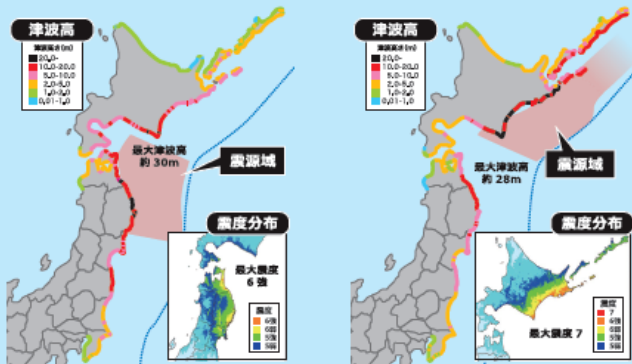
想定される
津波高 **最大 30m**

想定される津波と震度

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の発生に伴い、北海道から千葉県にかけての広い範囲で著しい災害が生じるおそれがあります。特に沿岸部では津波による甚大な被害が生じる可能性があります。大きな被害が見込まれる地域では、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備える必要があります。

日本海溝沿いの地震

千島海溝沿いの地震



被害想定と防災対策

- M9クラスの巨大地震が発生した場合、**最悪のケース**で約**19万9千人**の死者の発生が想定
- 津波から逃れた後、**寒冷状況に長時間さらされることによる、低体温症による死亡リスクの高まり**
- **避難意識の改善や防寒用品の準備など事前の備えで被害を約8割低減**

※冬の過後に日本海溝沿いの巨震・日高沖でM8.1の地震が発生。住民の避難意識が低い場合

日頃から地震の発生に備えよう

<p>□家具の固定</p>	<p>□非常用持ち出し袋の準備</p>	<p>□水や食料の備蓄</p>
<p>□避難場所や避難経路・二次避難経路の確認</p>	<p>□出火防止対策</p>	<p>□建物の耐震化</p>

①：特に積雪寒冷地での備え

突発的に発生し得る地震に備え、自らの命、大切な人の命を守るために、日頃から準備しておきましょう

続いて発生し得る巨大地震にも備えよう ～北海道・三陸沖後発地震注意情報～

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、一度 M7 クラスの地震が発生した後、続いて大きな地震(後発地震)が発生した事例があります。実際に後発地震が発生する確率は低いものの、発生した場合に一人でも多くの命を救うため、想定震源域及びその周辺で M7.0 以上の地震が発生した場合には、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されます。

情報が発表されたら、地震発生から 1 週間程度、社会経済活動を継続した上で、日頃からの地震への備えの再確認に加え、揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした際に、すぐに避難できる態勢を準備しましょう。



日本海溝・千島海溝沿いの
巨大地震の想定震源域

想定震源域及び
その周辺(M6の大きさで震むる)で
M7.0以上の大地震が起きたら…

続いて発生する巨大地震の可能性！
情報で備えを

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表

通常の生活を
しながら、1週間程度
巨大地震に備える

北海道・三陸沖後発地震注意情報の留意事項

！ 後発地震の発生可能性は、世界的事例を踏まえても百回に 1 回程度で、1 週間のうちに、必ず後発の大規模地震が発生するとは限りません。

！ 情報の発表がないまま、突発的に巨大地震が発生することを想定し、日頃から地震への備えを行うことが大切です。

！ 国や自治体から、事前避難は呼びかけませんが、地震発生から 1 週間程度、平時よりも大規模地震の発生に注意し、揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした際に、すぐに避難できる態勢を徹底しましょう。

！ 1 週間という期間は、人々が対応を続けられる限度等を加味しているため、1 週間経てば後発地震が発生する可能性がなくなるわけではありません。引き続き、地震の発生に注意しましょう。

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表時の防災対応

<p>地震時に迅速な避難が必要な場合</p> <p>揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢の準備</p> <p>すぐに避難できる態勢での状態</p> <ul style="list-style-type: none"> □すぐに逃げられる服装で部屋 □子どもや高齢者等、要配慮者と同道で避難 □室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用 <p>安全な部屋</p> <p>避難なれた家</p> <p>非常持出品の常時携帯</p> <ul style="list-style-type: none"> □準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、数時間時は元気に置く □身分証明書や貴重品を常時携帯 □防炎器具等、機密情報に備えた装備を手元に置く 	<p>地震によるリスクの高い場所がある場合</p> <p>想定されるリスクからの身の安全を確保する備え</p> <p>揺れによる倒壊への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> □先発地震で倒壊した建物や崩れやすいブロック塀等にはできるだけ近づかない <p>揺れによる倒壊</p> <p>土砂災害等への注意</p> <ul style="list-style-type: none"> □先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所にはできるだけ近づかない □崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋の部屋を捨てる □地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクのある区域であることを意識して、いつでも避難できるようにする <p>崖から崩れた土砂</p>	<p>後発地震に注意し、誰もが実施すべき備え</p> <p>緊急情報の取得体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> □携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時より上げておく □ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置 <p>緊急アラート</p> <p>電話の確保</p> <p>日頃からの備えの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> □水や食料の備蓄の再確認 □避難場所・避難経路等の再確認 □家具との連絡手段の再確認 □家具の固定の再確認 □自治会単位での訓練等の再確認等 <p>避難場所？ 緊急の連絡先！ 中学校？</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された場合に防災対応をとるべきエリア

北海道から千葉県にかけての広い範囲に及びます。

防災対応をとるべきエリアの基本的な考え方

- 震度 6 弱以上の地域
- 津波高 3 m 以上の地域
- 地震防災対策の一体性から、防災対応をとるべきと考える地域

お問い合わせ先

内閣府
Cabinet Office

内閣府政策統括官(防災担当) 付
事務官(防災・企画担当)

〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-6 赤坂グリーンクロス 18 階
TEL: 03-5253-2111 (大代表)
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaika_chishima/hokkaido/index.html

気象庁
Japan Meteorological Agency

地震課

〒105-4431 東京都港区虎ノ門 3-6-9
TEL: 03-6758-3900 (代表)
https://www.jma.go.jp/jma/kishu/know/jishin/coq/info_guide.html

